

2. 白石市の地域及び公共交通の現状・実態

2-1 白石市の現状等の整理

(1) 白石市の人口等の状況

■人口：35,391人（平成28年3月31日現在）（うち、白石地区が約50%）

■世帯数：14,098世帯（平成28年3月31日現在）（世帯人数：2.5人）

■高齢化率：31.7%（平成28年3月31日現在）（平成22年：27.1%）

- ・人口推移については、全ての地区が減少傾向となっていますが、特に白石地区、福岡地区は近年7年間で750～1,000人程度（年間100人以上）減少しています。
- ・世帯数については、白石地区、福岡地区が増加傾向、その他の地区は横ばい傾向となっています。

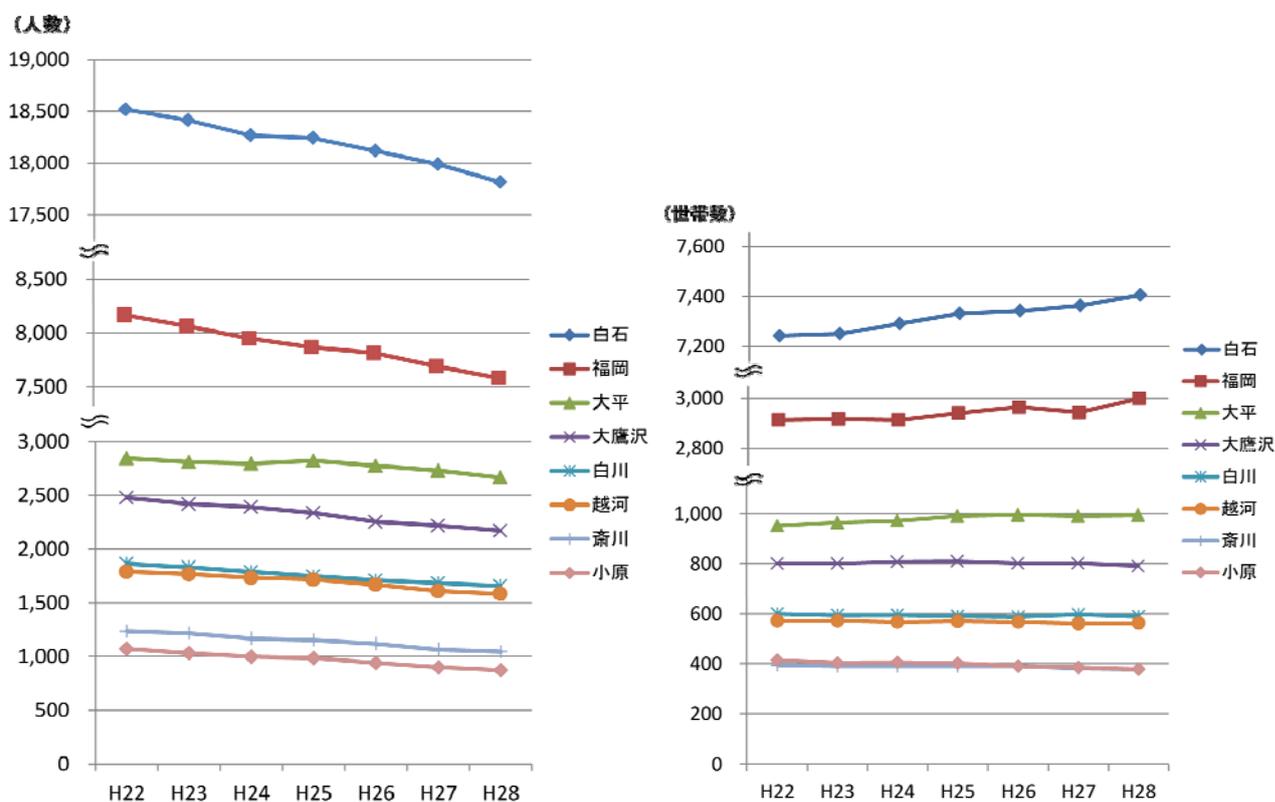


図 白石市の人口・世帯の推移（資料：住民基本台帳各年3月31日値）

- ・高齢化率の推移をみると、平成18年の25.5%から上昇傾向にあり、平成28年では31.7%となっています。

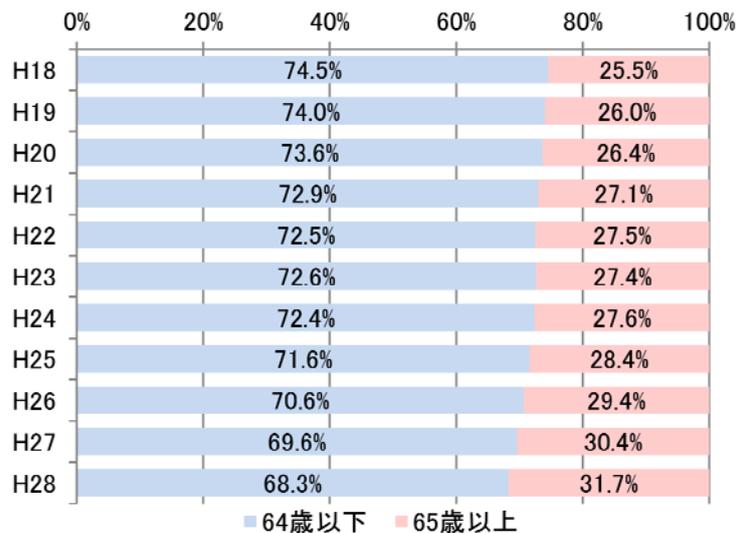


図 年齢別人口の推移 (資料：住民基本台帳各年3月31日値)

- ・年齢別人口構成については、65歳以上の高齢者の割合が最も少ないのは大平地区で、762人(28.6%)となっています。次いで、白石地区は5,167人(29.0%)、福岡地区は2,485人(32.8%)、大鷹沢地区は762人(35.1%)、白川地区は612人(37.0%)、斎川地区は393人(37.6%)、越河地区は625人(39.5%)、小原地区は425人(48.7%)の順となっています。

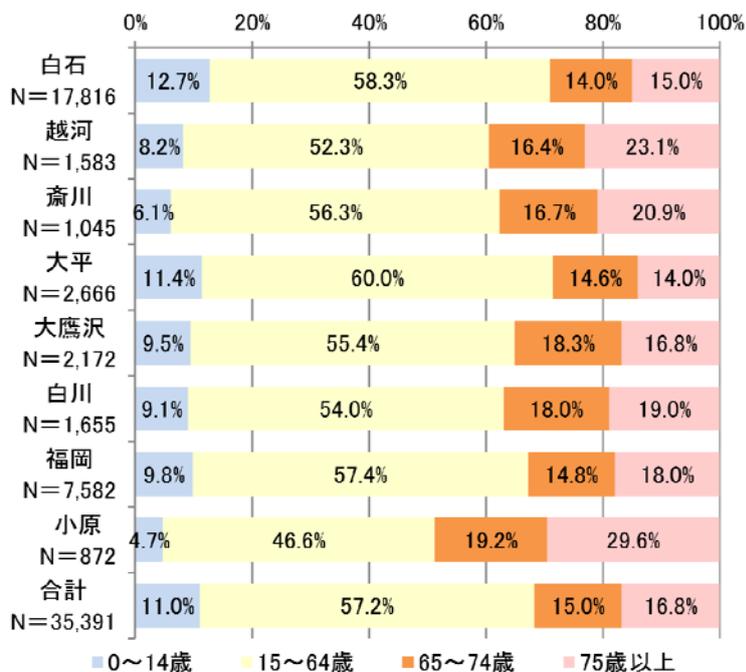


図 地域別年齢別人口構成 (資料：白石市統計資料 平成28年3月31日値)

■人口集中地区（※D I D）

- ・白石市内の人口集中地区は、白石地区の中心部のみとなっています。

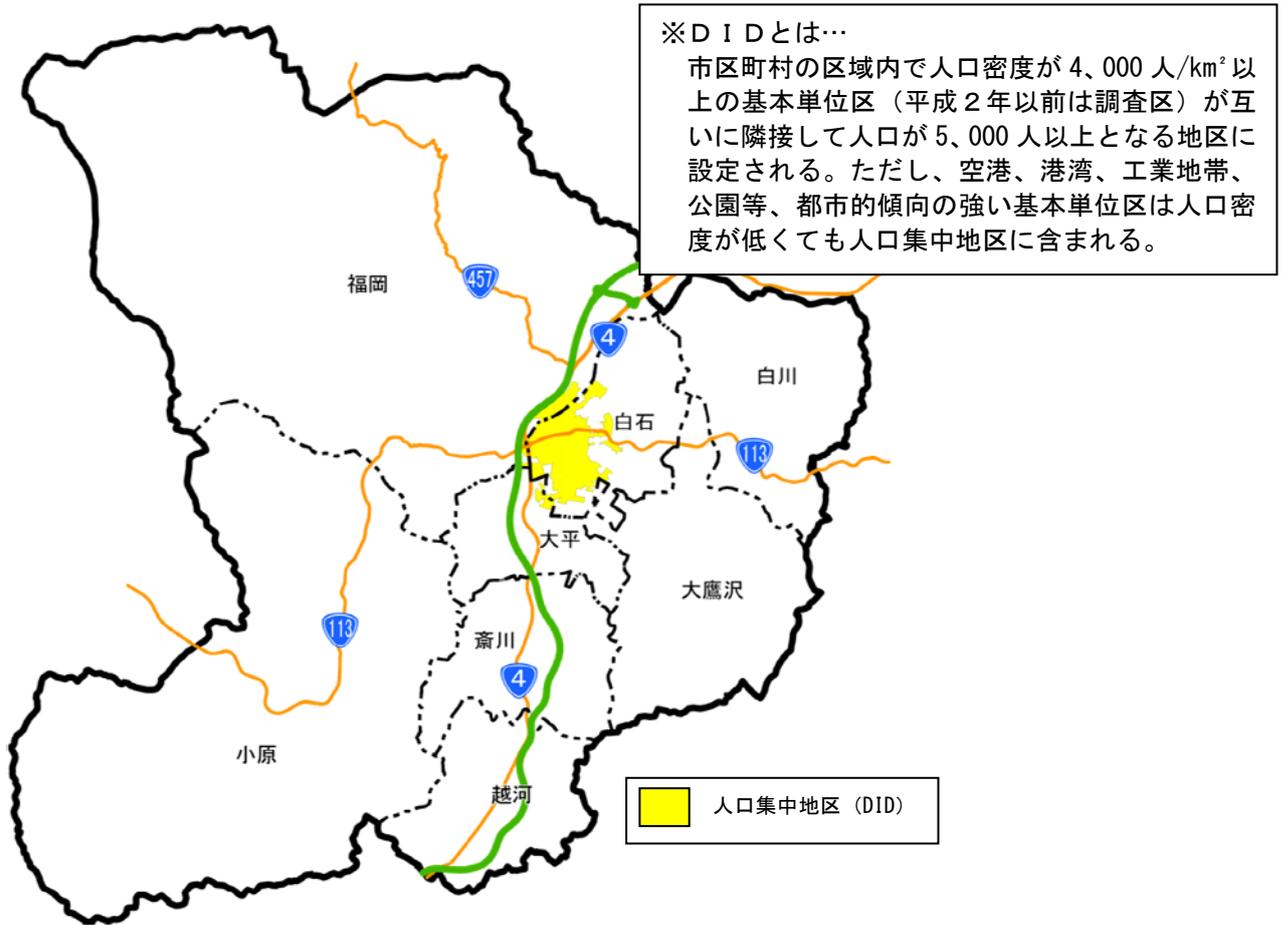


図 白石市の人口集中地区（D I D）（資料：平成22年国勢調査）

■自動車保有台数

- ・貨物用・乗合用・特殊は横ばい傾向、乗用は減少傾向、軽自動車、小型二輪は増加傾向となっています。



図 白石市における自動車保有台数の推移（資料：白石市統計書 各年3月31日値）

■行政区別人口密度

- ・白石地区中心部及び福岡地区、大平地区、斎川地区の一部で人口密度が高くなっています。

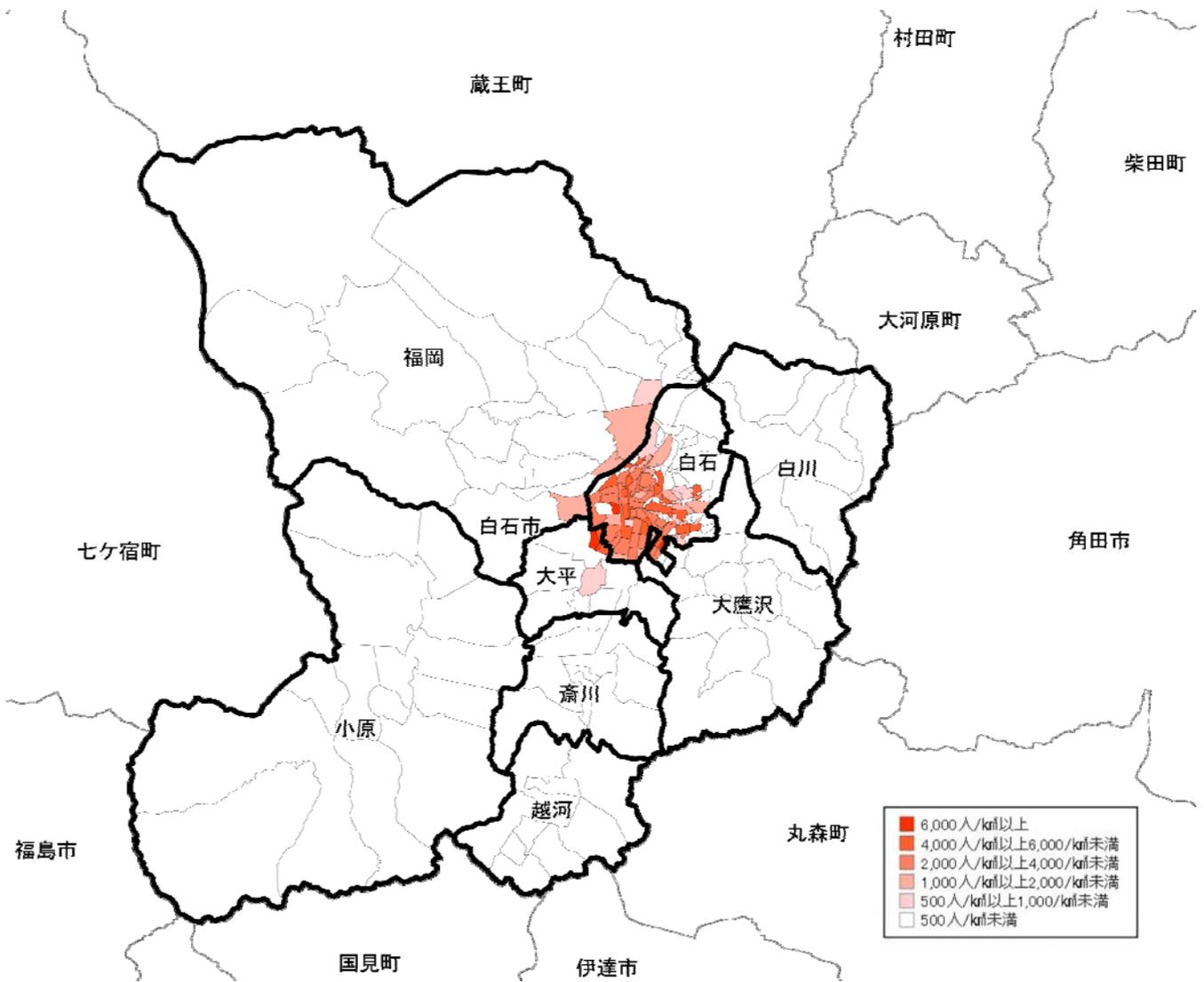


図 行政区別人口密度 (資料：平成 27 年国勢調査)

(2) 白石市の主な施設の立地状況

■官公庁施設

- ・白石市内には、「白石市役所」、「ホワイトキューブ（白石市文化体育活動センター）」、「白石警察署」等、市の主要な施設が立地しています。

■病院施設

- ・地域の拠点病院である「公立刈田総合病院」は福岡地区に立地しています。

■商業施設

- ・白石地区には商業施設が多数集積しています。

■高等学校

- ・白石市内の高等学校は白石高等学校、白石工業高等学校の2校となっており、全て白石地区に立地しています。

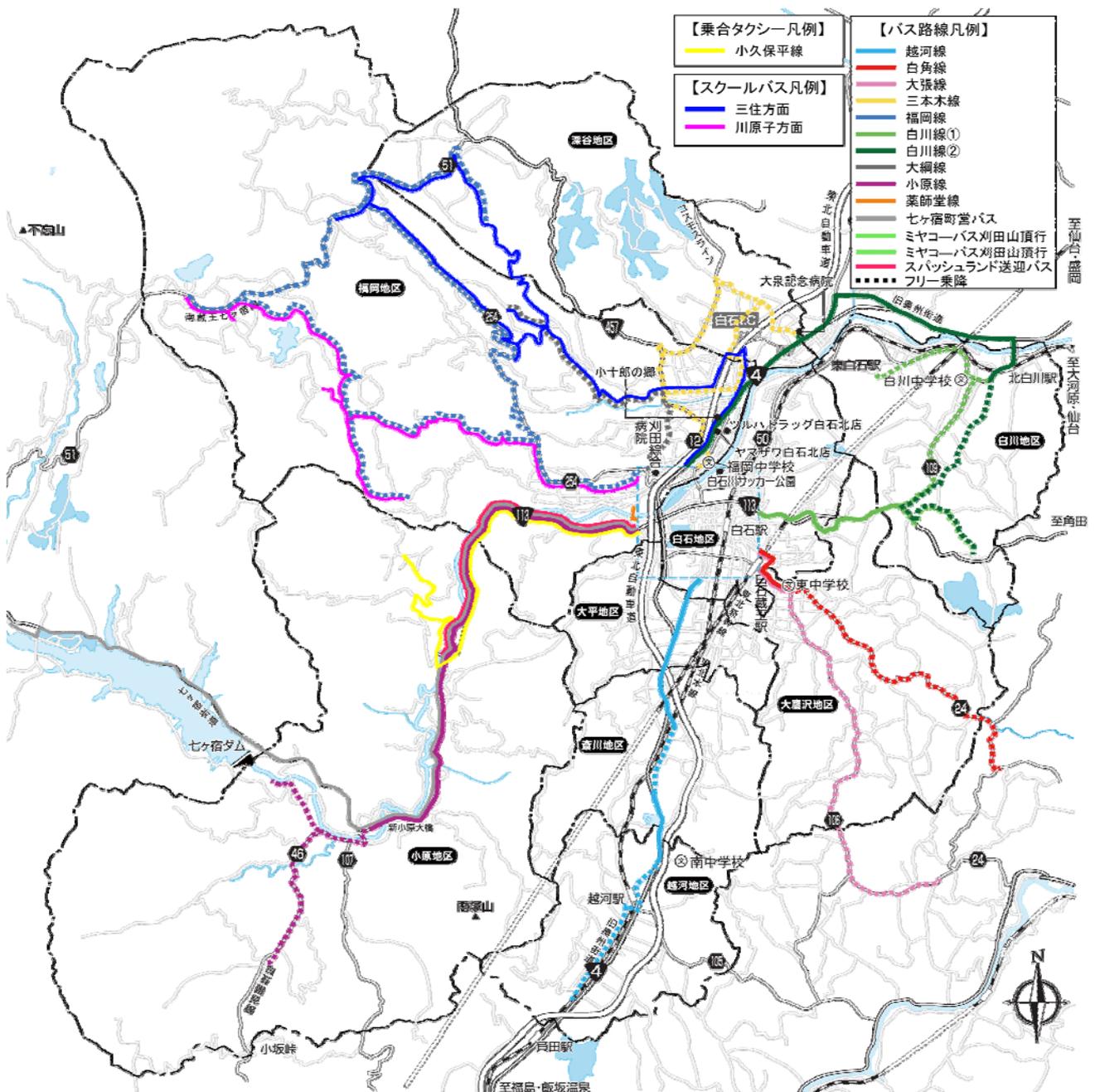


図 主な施設の立地状況（全域）

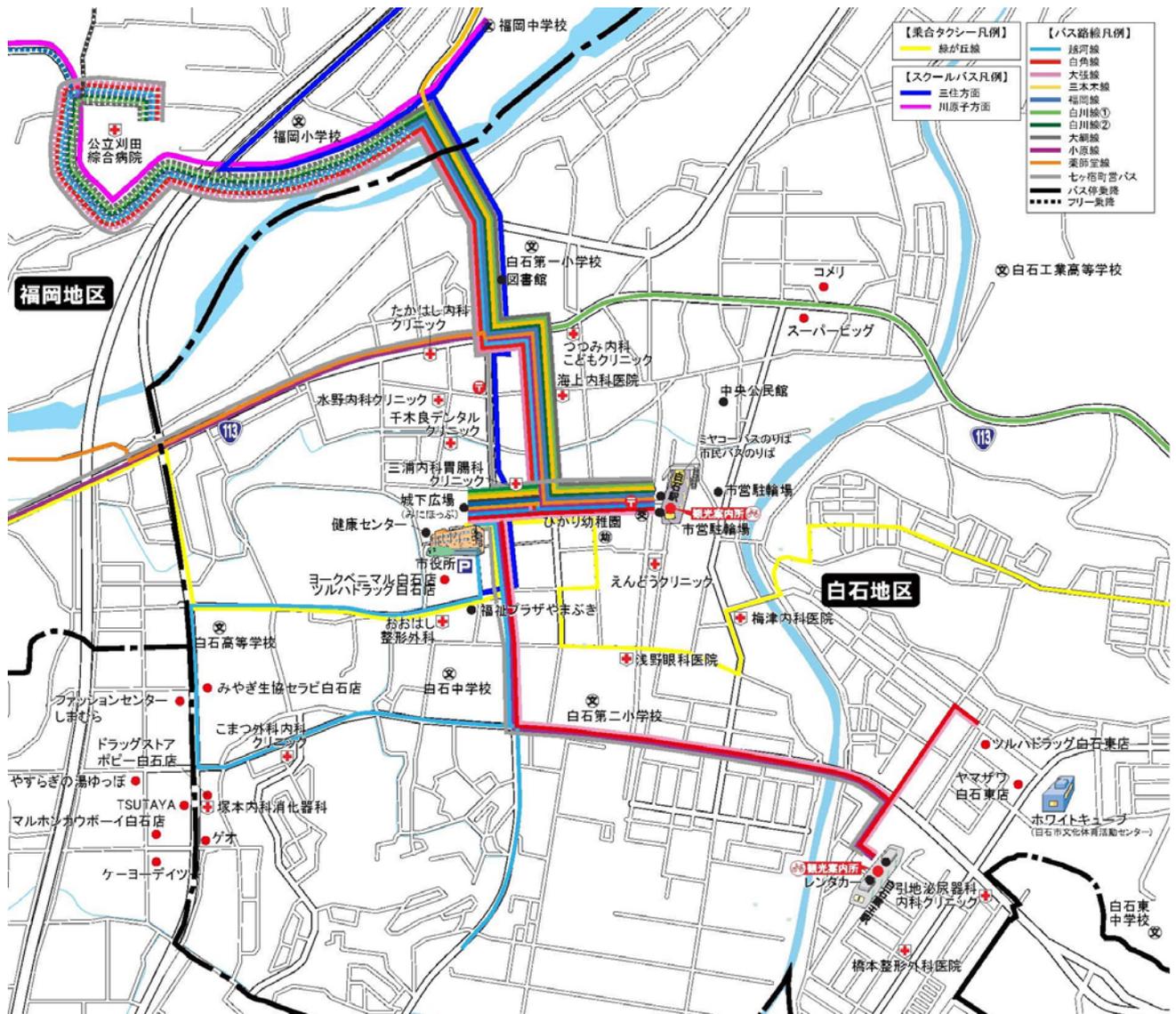


図 主な施設の立地状況（中心部）

【病院施設・買物施設】

○よく利用する病院施設（市民アンケート）

- ・市民アンケートによる「病院施設」は、「公立刈田総合病院」が約37%と最も多く、市外では「大河原町（みやぎ県南中核病院など）」が約12%と多くなっています。

○よく利用する買物施設（市民アンケート）

- ・市民アンケートによる「買物施設」は、「ヨークベニマル白石店（大手町）」、「みやぎ生協セラビ白石店（八幡町）」が多くなっており、市外では近隣の「大河原町」が多くなっています。

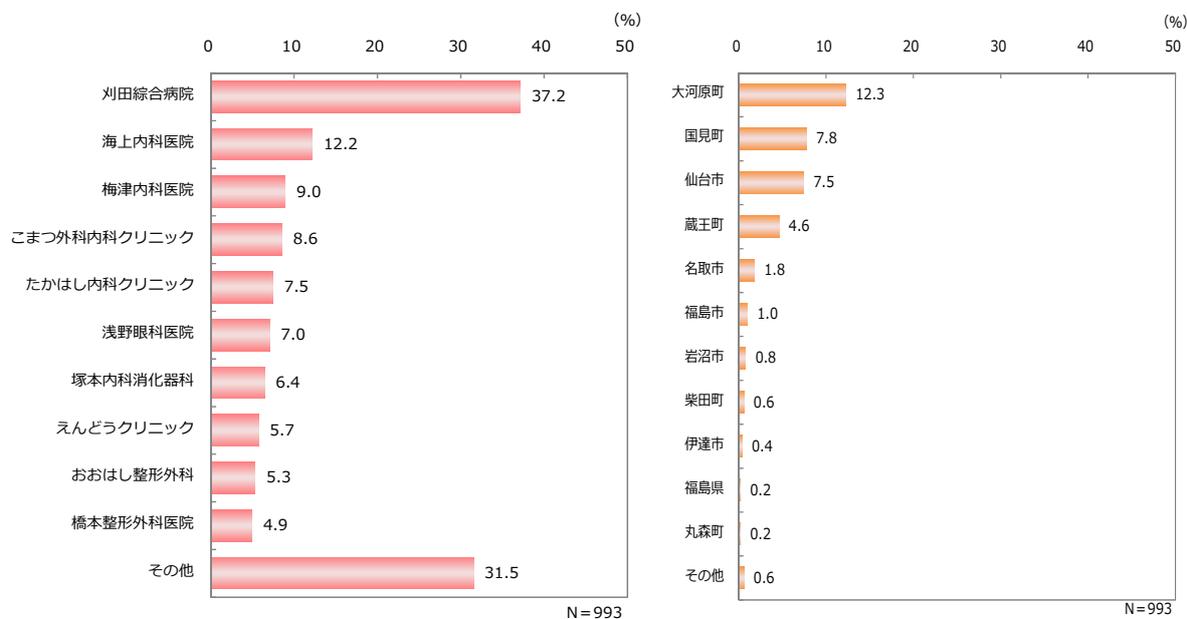


図 よく利用する病院施設<左：市内、右：市外>（H28 市民アンケートより）

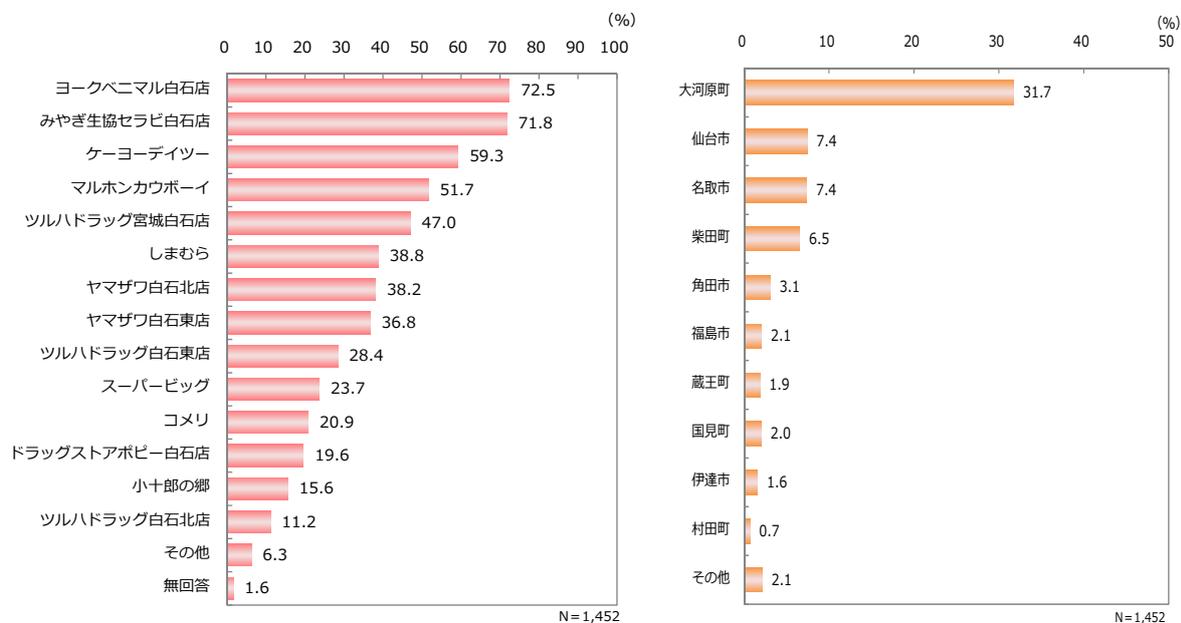


図 よく利用する買物施設<左：市内、右：市外>（H28 市民アンケートより）

【高等学校】

○高等学校（ヒアリング調査）

- ・市内在住の生徒は約3割に留まっており、約半数は周辺の仙南地域から通学しています。
- ・生徒の利用交通手段は、約6割以上が「JR」で、白石駅から徒歩で通学しています。現在、市民バスを利用している生徒は各校1割以下となっています。

学校	住所	生徒数	教職員数	生徒居住地	利用交通手段	市民バス利用者
白石高等学校	益岡町2-7	916名 (普通科716名、看護科120名、専攻科78名)	146名	白石市内27% 仙南地域48% 仙台市内7% (看護科は全県)	JRが63% 自転車15% 自家用車12% バスは4%(36名)	部活動などを行っていない生徒
白石工業高等学校	郡山字鹿野43	688名	88名	白石市内30% 仙南地域42% 仙台市内3%	JRが63% 自転車20% 自家用車12% バスは6%(40名)	七ヶ宿町から17名(町営バス)、蔵王町から11名(株ミヤコーバス)、その他丸森町など ※市内10名程度が市民バスを利用、白石駅から徒歩

* 上記データはH28.10ヒアリング結果による

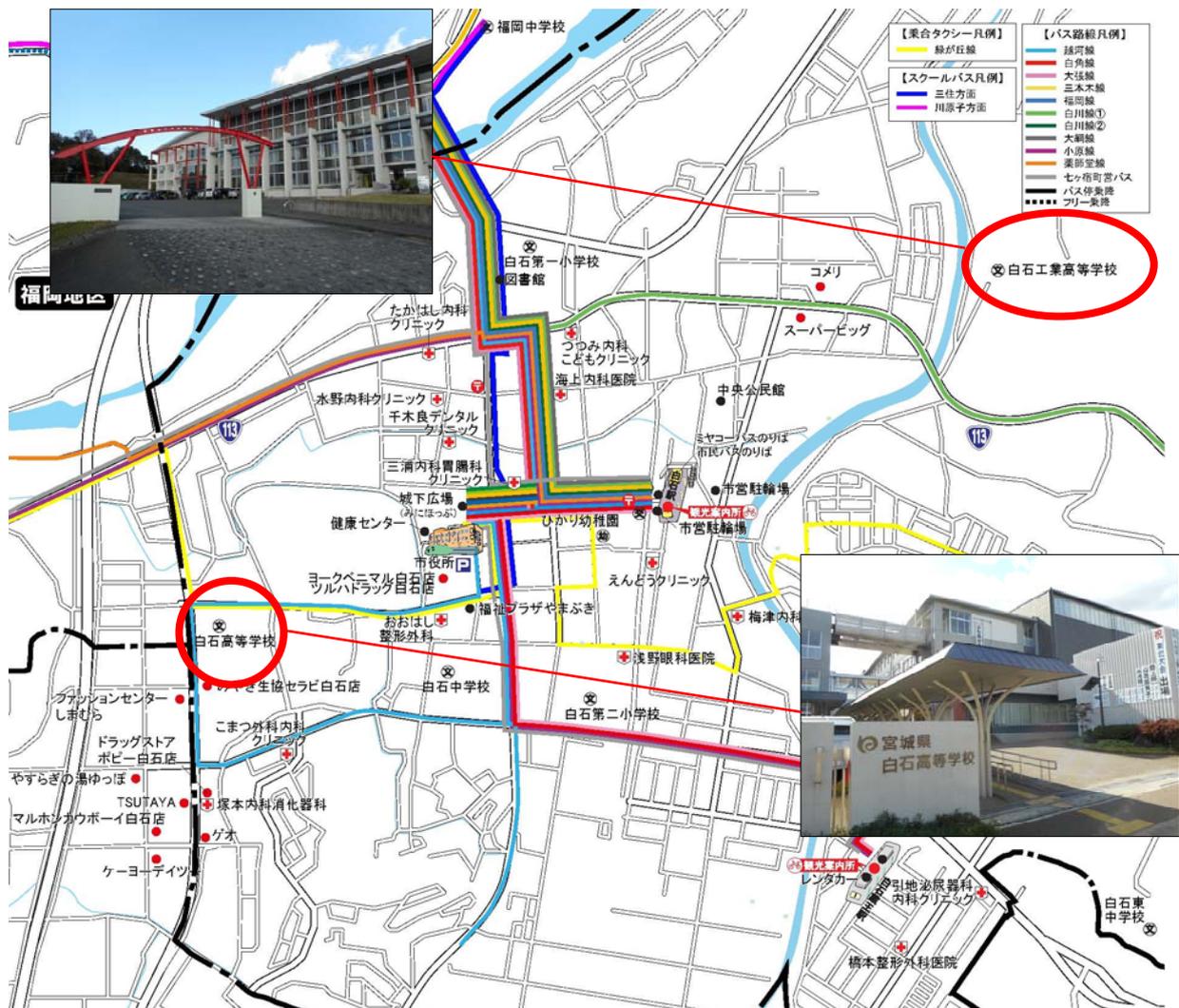


図 高等学校の立地状況 (H28ヒアリングより)

(3) 白石市の人の動き

1) 通勤

- 通勤先は、白石市内が約7割で、残りの3割が市外へ流動しています。
- 市外への流出流入人数は、流出（5,624人）、流入（4,850人）となっており、流出の方が多くなっています。
- 市外への通勤（流出）は、仙台市（1,251人）、蔵王町（837人）、大河原町（686人）の順に多くなっています。
- 市外からの通勤（流入）は、大河原町（792人）、蔵王町（768人）、仙台市（648人）の順に多くなっています。

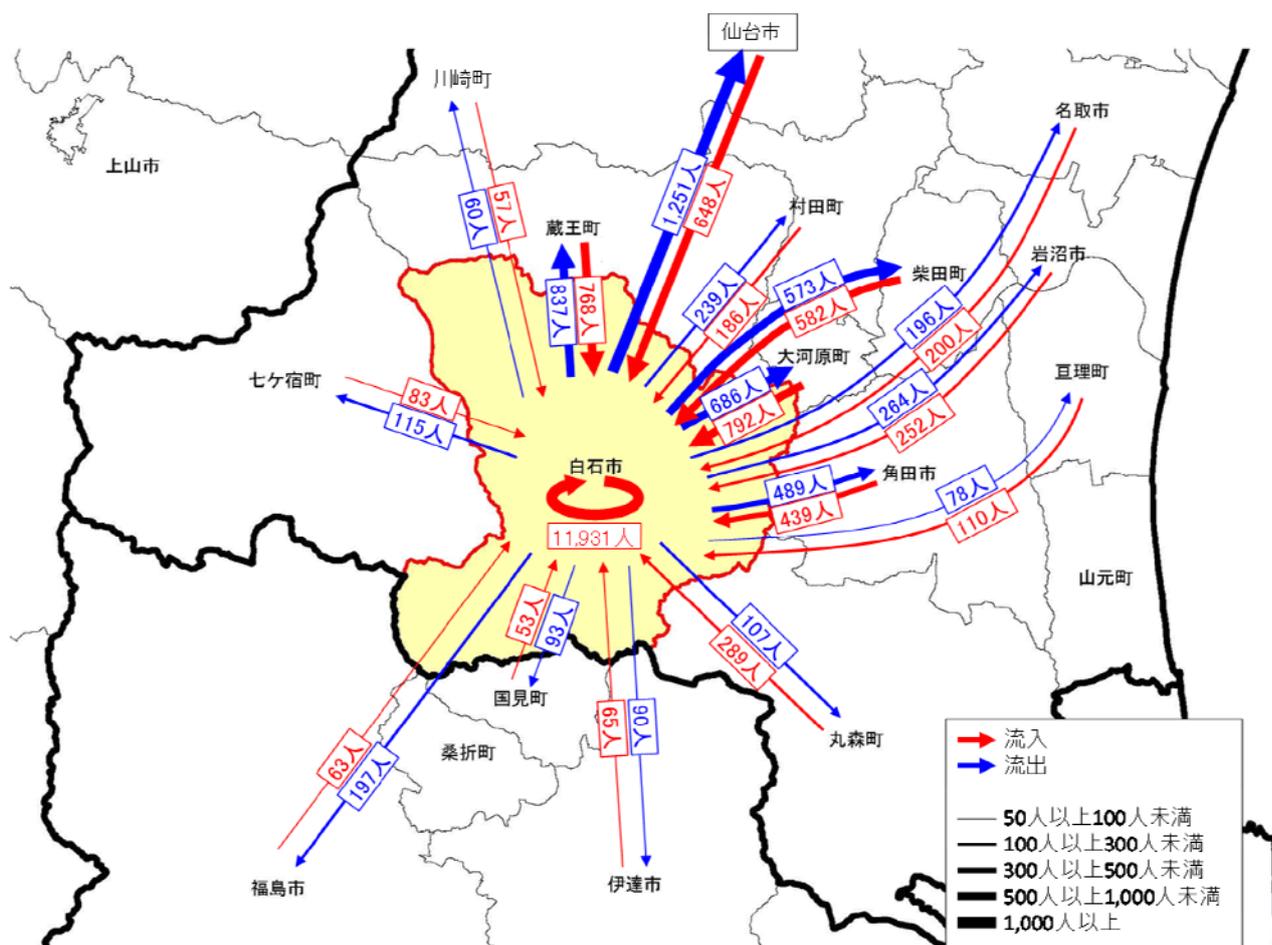


図 通勤の市外流動（出典：平成22年国勢調査）

2) 通学

- 通学先は、白石市内が5割で、残りの5割が白石市外へ流動しています。
- 市外への流出流入人数は、流出（912人）、流入（1,077人）となっており、流入の方が多くなっています。
- 市外への通学（流出）は、仙台市（450人）、大河原町（122人）、柴田町（76人）の順に多くなっています。
- 市外からの通学（流入）は、柴田町（271人）、大河原町（185人）、角田市（95人）の順に多くなっています。

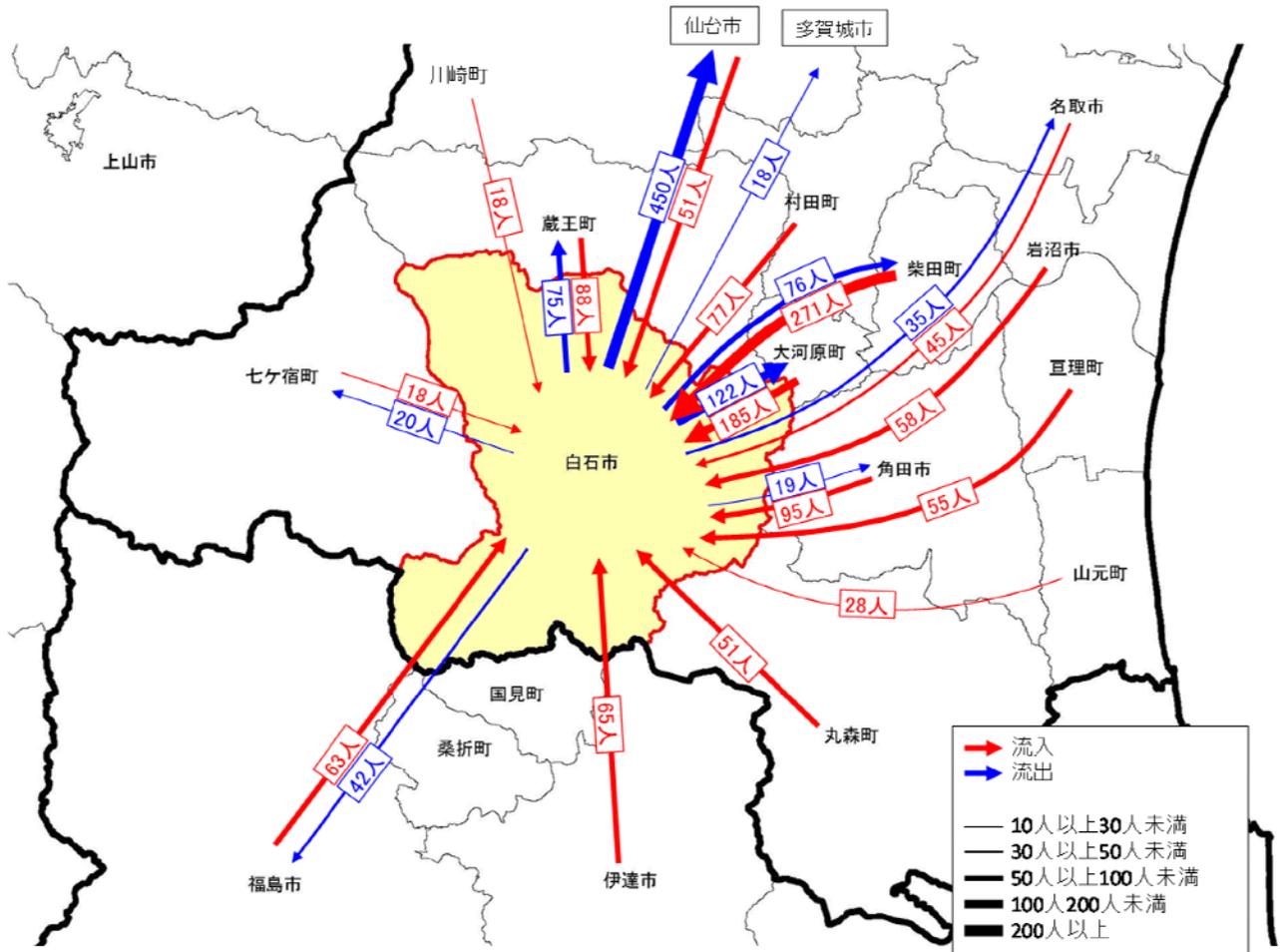


図 通学の市外流動（出典：平成 22 年国勢調査）

3) 買物（最寄品）

- 最寄品の買物先は、白石市内が9割で、残りの1割が白石市外へ流動しています。
- 市外への買物（流出）は、大河原町（2.0%）、角田市（1.0%）、柴田町（0.9%）の順に多くなっています。
- 市外からの買物（流入）は、七ヶ宿町（69.0%）、蔵王町（17.3%）、丸森町（4.6%）の順に多くなっています。

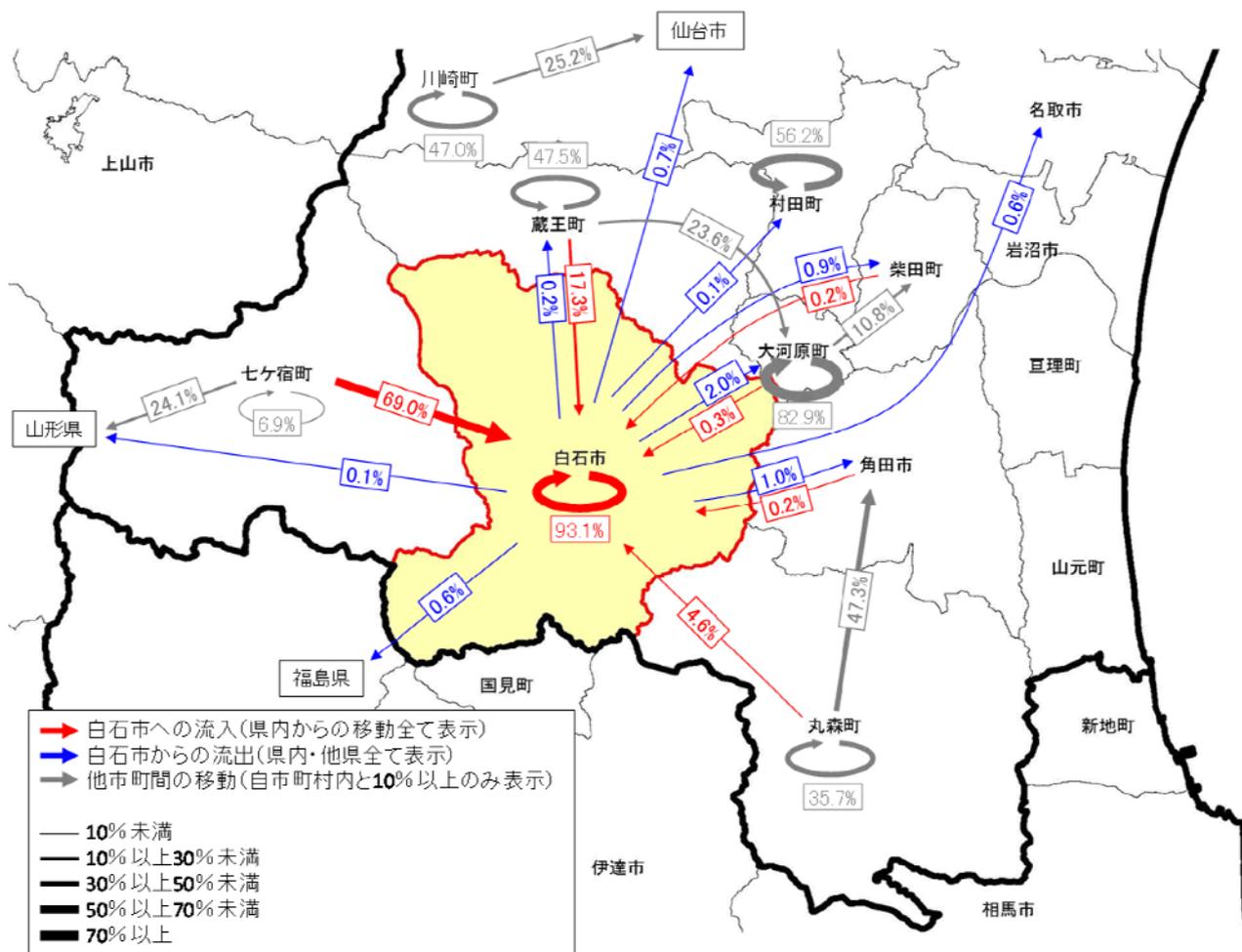


図 最寄品の買物流動（出典：宮城県の商圏 H28.3）

【参考】

○小中学校の統廃合について

- ・白石市教育委員会は、児童生徒数が減少した3つの小中学校を、それぞれ市中心部の大規模校に統合する方針としています。
- ・平成30年度に斎川小学校（17人）を白石第二小学校（643人）、平成31年度には南中学校（46人）を白石中学校（343人）、白川中学校（38人）を東中学校（344人）に統合予定となっています。
- ・これら近い将来において、小中学校がない地域が増加し、各地域のコミュニティが形成されにくくなることが想定されます。

白石市小中学校の在り方検討委員会「答申」

白石市小中学校の将来構想

～ 将来の小中学校のあり方を考えました ～

☎教育委員会管理課 ☎22-1341

児童・生徒数の推移

年度	児童・生徒数計 (人)	児童数 (小学生) (人)	生徒数 (中学生) (人)
S60	5,600	3,800	1,800
S61	5,500	3,700	1,800
S62	5,400	3,600	1,800
H15	3,500	2,200	1,300
H16	3,400	2,100	1,300
H17	3,300	2,000	1,200
H18	3,200	1,900	1,100
H19	3,100	1,800	1,000
H20	3,000	1,700	1,000
H21	2,900	1,600	1,000
H22	2,800	1,500	1,000
H23	2,700	1,400	1,000
H24	2,600	1,300	1,000
H25	2,500	1,200	1,000
H26	2,400	1,100	1,000
H27	2,300	1,000	1,000
H28	2,200	900	900
H29	2,100	800	900
H30	2,000	700	900
H31	1,900	600	900
H32	1,800	500	900
H33	1,700	400	900

I 白石市の現状

本市では、学校は地域核となる存在のため、存続させたいとの思いまで統廃合を進めた経過があります。しかし、現在の児童は2,612人で、昭和成30年度には2,064人、406人と見込まれ、

平成28年5月
白石市教育委員会

〇〇地区の皆様へ

白石市小・中学校の学校統合について

平成27年10月号の広報しろいしでお知らせしたところですが、白石市小中学校の在り方検討委員会の「答申」を受け、白石市教育委員会では、「児童・生徒の教育のためにどのような学校が最適であるのか」ということを前提に検討を重ね、本来の教育活動を行うためには次のような規模が望ましいと考えました。

- ①小学校は、複式学級にならない規模であること。
- ②中学校は、クラス替えが可能な規模であること。

このことから、該当する斎川小学校、南中学校、白川中学校について、下記のとおり統合を進めてまいりますので、ご理解をお願いいたします。

(1) 小中学校の統合の組み合わせ及び時期について

- ① 斎川小学校 は、白石第二小学校 に統合
…平成30年4月1日
- ② 南中学校 は、白石中学校 に統合
…平成31年4月1日
- ③ 白川中学校 は、東中学校 に統合
…平成31年4月1日

(2) 統合に向けた今後の準備等について

本年度内に、統合に係る「学校統合準備委員会」を統合対象の3地域にそれぞれ設置し、統合に伴う諸問題を調査・検討し、スムーズに統合ができるようにいたします。

なお、学校統合準備委員会委員は、「各学校長・各学校保護者代表・各学校学区内住民代表・教育委員会事務局職員」をメンバーに考えており、準備委員会の下部組織として「専門部会」を設置し、具体的な調査・検討を行うこととしております。

II 検討委員会への諮問

このような現状を踏まえ、児童生徒の社会性を育むため、良い教育環境を創るため、校運営などに関する諸問題、白石市における学校正規模や適正配置（以下「化」）のあり方、その具体善方策を提言することを、白石市小中学校の在り方検討委員会（以下「検討委員会」）が設置されました。

検討委員会は、阿部芳吉大学学長を委員長とし、保や地域の方、学校関係者などで構成。平成25年8月から市立小・中学校の規模など、その具体的方策などを討を行いました。

図 学校の将来構想（出典：広報しろいし H27.10）

14

(4) 白石市の観光

- 白石市には、白石城を始め、鎌先温泉、小原温泉、宮城蔵王キツネ村などの著名な観光地が立地しており、年間約74万人の観光客、7.4万人の宿泊者が訪れています。
- 観光客数は近年横ばい傾向となっており、伸び率では震災前の数値に戻っていない状況となっています。
- 宿泊者数は近年減少傾向となっており、伸び率では、仙南地域や仙台圏と比較して大きく差が出ています。
- 近年、外国人観光客が増加している「宮城蔵王キツネ村」への公共交通手段は少なく、また、市内の温泉施設では、白石蔵王駅などへ自家用バスでお客様を送迎しており、運行に対する負担が挙げられているなど、観光交通への対応が求められています。

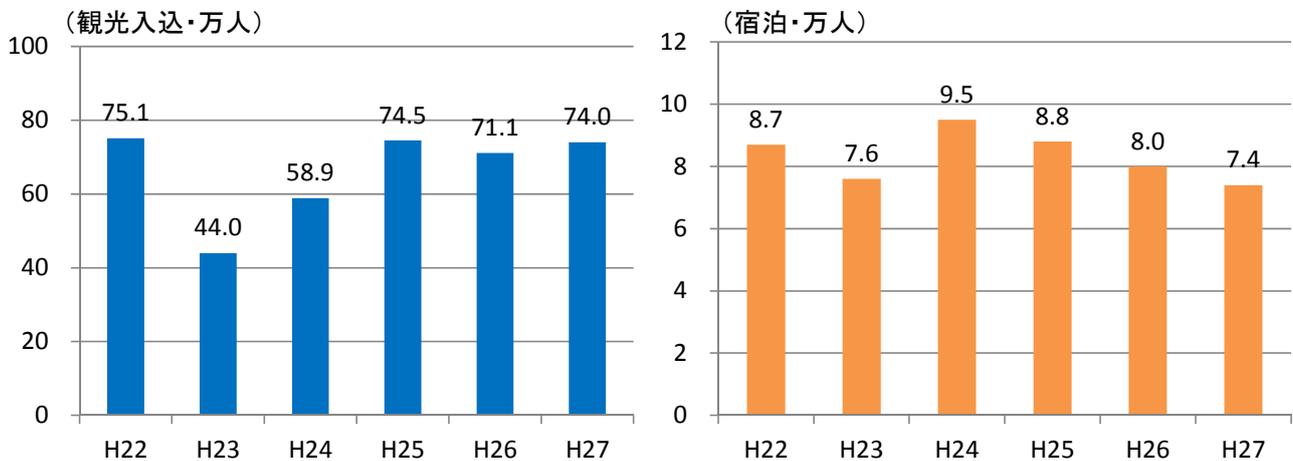


図 白石市の観光入り込み客数・宿泊者数の推移 (出典：宮城県観光統計概要)

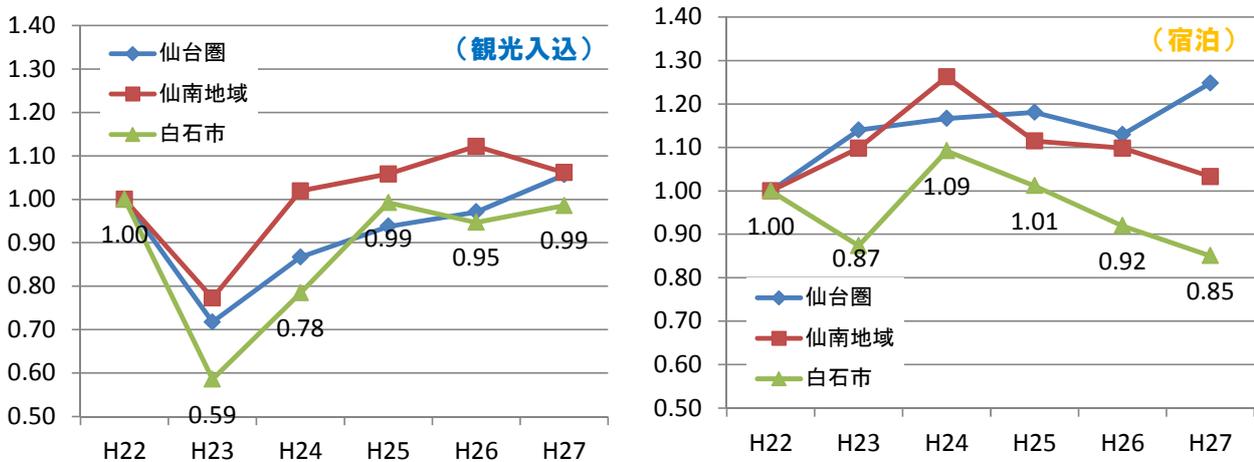


図 観光入り込み客数・宿泊者数の推移 (出典：宮城県観光統計概要)